



平成27年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年5月12日

上場取引所 東 福

上場会社名 株式会社 グランディーズ

コード番号 3261 URL <http://grandes.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 亀井 浩

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理担当

(氏名) 枇杷木 秀範

TEL 097-548-6700

四半期報告書提出予定日 平成27年5月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第1四半期の業績(平成27年1月1日～平成27年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第1四半期	188	△74.9	8	△87.4	9	△86.4	5	△86.0
26年12月期第1四半期	752	141.9	68	20.3	68	20.2	42	19.8

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期第1四半期	4.66	4.59		
26年12月期第1四半期	40.53	39.43		

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
27年12月期第1四半期	1,108	785.51	990	785.51	89.3	785.51	785.51	
26年12月期	1,166	770.14	961	770.14	82.5	770.14	770.14	

(参考)自己資本 27年12月期第1四半期 990百万円 26年12月期 961百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
27年12月期	—	—	—	—	—	—
27年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	750	△32.0	110	△16.4	113	△14.8	70	△13.6	55.54
通期	2,000	△9.3	310	0.9	315	3.3	185	4.8	146.74

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期1Q	1,261,000 株	26年12月期	1,248,700 株
② 期末自己株式数	27年12月期1Q	— 株	26年12月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期1Q	1,259,907 株	26年12月期1Q	1,037,000 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算短信補足説明資料の入手方法)

四半期決算短信補足説明資料は、平成27年5月12日(火)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	2
3. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第1四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5
(セグメント情報等) .....	5

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間のわが国経済は、景気が緩やかに回復し、先行きに対する期待感が高まることとなりました。生産が持ち直し、企業収益が向上、所得や雇用の環境も改善してきました。

東九州地域経済も全産業で景況感が上向くなど持ち直しの動きが顕著になりました。ただ、住宅・マンション業界はやや低調に推移しました。新設住宅着工戸数は持家や貸家の大幅減少が響き、前年を下回りました。消費者の購入マインドも予想外に停滞感が長引き、販売状況は中心部の一部が好調、郊外エリアは一様に低調と明暗が分かれました。また、建設費の高止まりがもたらす価格上昇圧力や需給バランスの悪化の影響で、地域によっては完成在庫が増加することとなりました。

こうした環境下、当社は大分市とその周辺地域および宮崎市での建売住宅販売に注力するとともに投資マンション販売の計画的な推進に努めました。しかし、当第1四半期の業況は極めて厳しいものとなりました。主力事業である建売住宅販売は四半期ベースでみると4年ぶりの低水準となり、その売上高は前年同期比29.4%減となりました。売上総利益率も3.2%低下しました。販売戸数は前年同期の大分12戸、宮崎2戸の計14戸から大分9戸、宮崎1戸の計10戸に減少しました。大分では前期後半に用地仕入が遅れた影響で販売物件が不足し、宮崎では見学会への来場者や問い合わせ件数の増加を販売実績に結びつけられませんでした。

そのうえ当第1四半期は、前年同期と異なり分譲マンション販売の売上計上がなかったため、売上高をはじめとする経営成績が大きく落ち込むこととなりました。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は188,725千円(前年同期比74.9%減)、営業利益は8,697千円(前年同期比87.4%減)、経常利益は9,331千円(前年同期比86.4%減)、四半期純利益は5,866千円(前年同期比86.0%減)となりました。

なお、当社は不動産販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は1,090,596千円となり、前事業年度末に比べ57,082千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が259,828千円減少、有価証券が100,009千円増加、販売用不動産が26,627千円増加、仕掛販売用不動産が77,375千円増加したこと等によるものであります。固定資産は18,213千円となり、前事業年度末に比べ363千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が579千円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は1,108,810千円となり、前事業年度末に比べ57,445千円減少いたしました。

## (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は86,779千円となり、前事業年度末に比べ83,195千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が79,783千円減少、未払消費税が9,572千円減少したこと等によるものであります。固定負債は31,499千円となり、前事業年度末に比べ3,105千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が2,499千円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は118,278千円となり、前事業年度末に比べ86,301千円減少いたしました。

## (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は990,531千円となり、前事業年度に比べ28,855千円増加いたしました。これは主に第三者割当増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ11,494千円増加、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が5,866千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は89.3%(前事業年度末は82.5%)となりました。

## (3) 業績予想に関する定性的情報

平成27年12月期の業績予想については、当第1四半期の業況は厳しかったものの建売住宅販売の用地仕入や販売がここきて上向いていることに加え、投資マンション販売が一段と好調で下期の業績への貢献が着実に見通せることから、平成27年2月10日に公表した「平成26年12月期決算短信」に記載した予想数値を変更しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	928,790	668,961
売掛金	513	1,285
有価証券	50,044	150,053
販売用不動産	52,653	79,280
仕掛販売用不動産	106,491	183,867
その他	9,185	7,147
流動資産合計	1,147,679	1,090,596
固定資産		
有形固定資産	8,776	8,196
投資その他の資産	9,800	10,017
固定資産合計	18,576	18,213
資産合計	1,166,255	1,108,810
<b>負債の部</b>		
流動負債		
不動産事業未払金	43,246	53,982
工事未払金	2,498	471
1年内返済予定の長期借入金	9,996	9,996
未払法人税等	81,806	2,022
賞与引当金	—	4,401
完成工事補償引当金	2,135	2,083
その他	30,292	13,823
流動負債合計	169,975	86,779
固定負債		
長期借入金	27,509	25,010
その他	7,095	6,489
固定負債合計	34,604	31,499
負債合計	204,579	118,278
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	257,118	268,613
資本剰余金	247,088	258,583
利益剰余金	457,468	463,334
株主資本合計	961,675	990,531
純資産合計	961,675	990,531
負債純資産合計	1,166,255	1,108,810

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	752,674	188,725
売上原価	646,107	135,106
売上総利益	106,566	53,618
販売費及び一般管理費	37,796	44,921
営業利益	68,770	8,697
営業外収益		
受取利息	34	68
受取手数料	1,170	820
その他	54	31
営業外収益合計	1,258	920
営業外費用		
支払利息	1,272	131
株式交付費	—	154
営業外費用合計	1,272	286
経常利益	68,756	9,331
税引前四半期純利益	68,756	9,331
法人税、住民税及び事業税	24,075	1,664
法人税等調整額	2,651	1,800
法人税等合計	26,726	3,464
四半期純利益	42,030	5,866

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

当社は、不動産販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

当社は、不動産販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。